

さぬき市の小学生が産地でミニトマトの収穫を体験！

▼発生年月日：2021/11/11

▼執筆者名：佐治 博子、奥田 靖子、平田 早貴子

▼センター名：東讃農業改良普及センター

▼部門分類：野菜

▼活動分類：食農業教育・食育

▼公開：公開

▼備考：

▼本文

1) 11月11日、さぬき市津田町のミニトマト生産者 風呂隆文氏（JA香川県さぬき市ミニトマト部会長）のビニールハウスでさぬき南小学校の3年生25名がミニトマトの収穫体験を行いました。この取組みは、ミニトマト産地で栽培について学ぶ機会を通じ、地場野菜への愛着心と農業と食への理解を醸成することを目的に、さぬき市栄養教諭、JA、普及センターが連携して今年度初めて実施しました。

2) 風呂氏から、ミニトマトは土ではなくスポンジのようなもの（ロックウール）に植え付けていること、6月の定植後、10月中旬から翌年の7月までずっと収穫すること等について説明を受けた後、普及センターからは、当部会も認証を受けている「さぬき讃ベジタブル」について紹介しました。

続いて、風呂氏から収穫の仕方を教えてもらい、1人1パック（200g程度）のミニトマトを収穫しました。児童からは「ヘタを付けて収穫するのは難しい」といった声が多く出され、ハウスの中のマルハナバチの役割に興味を持ちながら楽しそうに収穫していました。

3) 最後に、今年度、国の産地生産基盤パワーアップ事業を活用して整備したミニトマト集出荷支援施設に移動して、出荷調整作業を見学しました。スーパーに並んでいるミニトマトは、このような作業で大きさや重さを揃えていることを学びました。

4) 普及センターでは、引き続き、関係機関と連携した農業体験学習の実施により、地産地消・食育の推進を図っていきます。



丁寧に収穫する児童



出荷調整作業を見学する児童